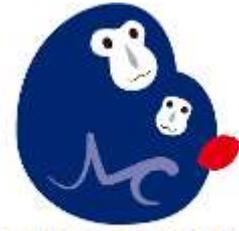


# 送 付 状



JAPAN MONKEY CENTRE

送信先 報道各位  
送信枚数 本紙を含めて 5枚  
送信日 2017年 12月 12日

## 冬の風物詩「たき火にあたるサル」

今年も 12月22日(冬至)より開催！

## モンキーバレイの櫓（やぐら）もリニューアル！

年の瀬が近づき、みなさまお忙しく過ごされていることと存じます。

さて、今年も冬至より、冬の風物詩「たき火にあたるサル」を開催いたします。伊勢湾台風の年(1959年)から半世紀以上の伝統をもつ風物詩(由来は別紙参照)で、火を全く恐れずに、大きなたき火で暖をとるサルたちの姿が見られます。14:00からの「ほかほかおイモタイム」では、たき火で焼いたイモをサルたちがほくほくと美味しそうに食べます。また、たき火にあたるサルたちを飼育している施設「モンキーバレイ」の櫓を改修し、リニューアルします。11年ぶりの改修工事となり、これまで実施しなかった新しいことを新生櫓に施しました。また、かわいらしいワオキツネザルの日光浴も冬の話題にいかがですか？

詳細は別紙参照

■日程 2017年12月22日(金)冬至 ~2018年2月25日(日)の土日祝

※12月22日、12月30日~1月8日は開催

※雨天決行、荒天時中止

■場所 日本モンキーセンター内 モンキーバレイ

### 【たき火にあたるサル】

火をこわがるはずのサルたちが、たき火を囲んでポカポカ！？

伊勢湾台風の年から58年続く、冬の風物詩です。

時間：11:30~14:00

### 【ほかほかおイモタイム】

飼育員のガイドのあと、たき火で焼いたおイモをサルたちがほおばります。

アツアツのおイモを美味しそうにほおぶの様子をご覧ください。

時間：14:00~

### 冬の風物詩「たき火にあたるサル」概要

また冬至に先立ち、「おきづくり」のために、12月21日(木)に「ためし焚き」をおこないます。本番と同様にモンキーバレイ内で火をたき、焼イモもおこないますので、報道関係の皆さまにも取材をしていただけます。

### ためし焚きの概要（取材も可能です）

■日程 2017年12月21日(木)

たき火：11:30~14:00      ほかほかおイモタイム：14:00~

### モンキーバレイ櫓リニューアル概要

■日程 2017年12月14日(木)からリニューアルオープン

■場所 日本モンキーセンター内 モンキーバレイ

### 本件に関するお問い合わせ先

〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林 26

公益財団法人日本モンキーセンター 学術部

TEL：0568-61-2327 FAX：0568-62-6823 メール：info@j-monkey.jp

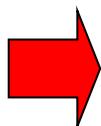
担当：附属動物園部 山田、荒木、石田、大島 学術部 江藤、赤見、新宅、綿貫、早川、高野

## 資料 1：改修された櫓について

1997年4月にモンキーバレイが完成し、これまで約20年間、ヤクニホンザルを飼育してきました。施設内のメインにあたる櫓は、今から11年前に一度改修されており、このたび久しぶりに改修工事をおこないました。日本モンキーセンターでは職員が屋久島をおとずれ、野生のヤクニホンザルの暮らしと生息環境を実感する「屋久島生息地研修」を実施しています。新生櫓では、職員が実際に見てきたヤクニホンザルの樹上での暮らしを再現するために、止まり木の角度や、消防ホースの設置の仕方に、今まで実施してこなかった新しい工夫を施しました。ヤクニホンザルが持つ本来の身体能力を垣間見ることができます。



旧櫓



新生櫓

### ○斜めに設置された登り木

斜めに登り木を設置することにより、急勾配なところも難なく登り降りができるサルたちの姿が見られます。



### ○消防ホースの設置

消防ホースを櫓に設置したことにより、不安定な足場でも難なく移動したり、遊んだりするサルの姿を見られます。



### ○高所にロープのついた滑車を設置

ロープがついた滑車を高所に設置することにより、高い場所に葉っぱつきの枝やエサが入ったフィーダー等を設置できるようになりました。高所での採食行動が観察できます。

## 資料 2：冬の風物詩「たき火にあたるサル」の由来

1959年(昭和34年)に東海地方で猛威をふるった伊勢湾台風の時に、出た倒木や家屋の残骸、木曾川河岸に流れ着いた流木を利用して、旧犬山野猿公苑(開苑期間:1957~1997)にて職員が、冬場暖まるためにたき火を始めたのがきっかけでした。子ザルがたき火に近づき当たりだしたのです。今ではどのサルも火に怖がらずたき火に当たっています。勢湾台風が産んだ冬の風物詩として、これまで「冬至」より翌年の2月末日(暖冬などにより変更あり)まで、58年間毎年続いています。また、余禄としてたき火でサツマイモを焼き、サルたちに寒い冬の午後の一時を幸福に浸ってもらっています。おきで2時間以上かけて焼かれる「焼イモ」の味は格別ようです。

たき火にあたるのは、世界遺産の島、屋久島にのみ生息するサル「ヤクニホンザル」で、現在154頭がモンキーバレイで暮らしています(資料参照)。ニホンザルの亜種で、体格が2回りほど小さく全体にこぢんまりとしています。好奇心が強く、放飼場フェンスの外にある葉っぱなどを、枝を使い獲得したり、石と石をぶつけて鳴らす石遊びをしたりと、次々に新しいことを編み出します。たき火のあとの焼イモを、池の水で冷やす行動も見られます。現在の第一位オスはタイマツ(1999年4月27日生まれ)で初代から数えると第16代目になります。

日本モンキーセンターでは1957年(昭和32年)以来、8世代にわたってヤクニホンザルを犬山で飼育し、様々な研究者の研究対象として、また霊長類を学んでいただくための生きた教材として、多くの方に愛されてきました。たき火にあたる行為は自然に発生したもので、他所ではニホンザルを用いて人為的に試みられていますが、8世代にわたって受け継がれ、0歳から母親とともにたき火にあたっているモンキーセンターのサルたちと同じようにはいかないようです。



犬山野猿公苑で実施していた頃の「たき火にあたるサル」

### 資料 3：たき火の様子



サルたちは本当にすぐ近くまで、炎に近づきます。

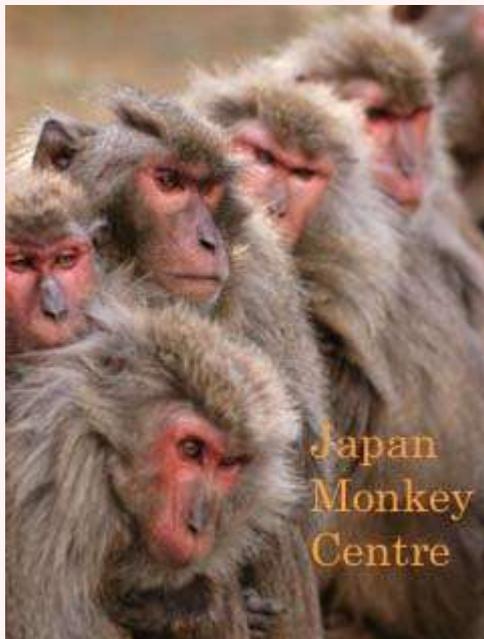
### 資料 4：ワオキツネザルの日光浴

モンキーセンターのサルたちはそれぞれの方法で暖をとります。ヤクニホンザルはたき火にあたって暖をとりますが、ワオキツネザルたちは太陽に向かって手を広げ、暖まります。太陽がでていないときはストーブで暖まります。



## 資料 5：ヤクニホンザルとワオキツネザルについて

### ヤクニホンザル



英名	Japanese Yaku-Macaque
学名	<i>Macaca fuscata yakui</i>
CITES	II
IUCN	LC

分布



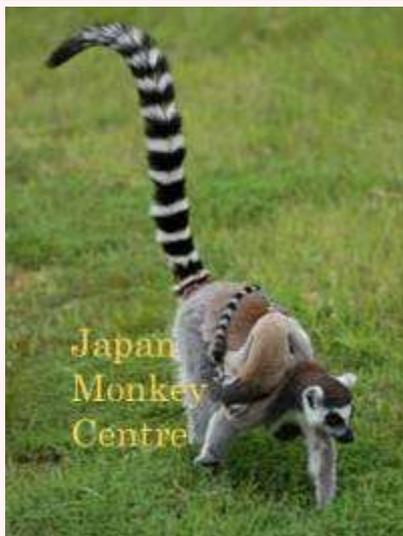
屋久島

会える場所

[モンキーバレイ](#)

- 世界遺産の島、屋久島に生息するニホンザルの亜種。
- 本土のニホンザルにくらべると、やや小型で体毛が長く、荒い。

### ワオキツネザル



英名	Ring-tailed Lemur
学名	<i>Lemur catta</i>
CITES	I
IUCN	EN A4cd

分布



マダガスカル島南部

会える場所

[Wao ランド](#)

- 名前の「ワオ」は「輪尾」から。種小名の「catta」はネコの意で、ネコのような鳴き声から付けられた。
- 代謝が低く、気温が低いときには日光浴をして体を温める。
- メス優位の複雄複雌の群れをつくる。オスが群れを移籍する。
- 前腕の内側に分泌腺がある。これで匂いづけをする他、長い尾に匂いをつけ、まっすぐ立てて振ることで自らの存在をアピールする。
- オス間、メス間それぞれに順位があり、順位は匂いによる闘争やけんかによって変動する。
- 前肢にくらべて後肢が発達しており、跳躍を得意とする。